四万十町

町内ぶら～り散策

# 奥呉地（おくくれじ）

国道56号の下呉地の三叉路から県道323号に入り松葉川方面に向かう。しばらく行くと、直進すれば松葉川という表示がある分かれ道にさしかかる。そこに「ヒロハチシャノキ（国の天然記念物の大木）へは右へ200m」と記された案内板があるのだが、そちらへ行く。「ヒロハチシャノキ」を左手に見ながら、さらに1・5kmほど奥へ進むと奥呉地地区に入る。行き止まりまでおよそ5kmの谷間の地区で、奥呉地川が流れる。

元は「奥久礼地」であり、久礼の佐竹氏の領地「久礼郷」であったことを示している。しかし、同じ時期に記された記録を見ると、窪川郷に帰属している部分もあったようである。

その後、長宗我部の時代を経て、江戸期には窪川山内氏の支配となる。その頃に「呉」と改められたと思われる。下久礼地も同様である。余談になるが、下呉地と奥呉地の間にある「魚の川」は、もともとは「中久礼地」だったのではないかと考えられている。

奥呉地は、戦国期の記録によれば、牛馬の数が多く、古くから有畜複合型農業が主であったようである。それが今日まで脈々とつながってきたのであろうか、近年まで、仁井田周辺の地区の中では、突出して酪農を営む農家が多かった。また、旧窪川町内では、お茶の栽培にいち早く取り組んだ地域でもある。

地区の氏神様（本来は氏神様とは特定の一族の守り神で、土地や地縁の守護人は「産土神（うぶすながみ）」というのだが）は河内神社で、上と下とに分けて祀（まつ）られている。

また、地区には江戸中期頃まで「宝蔵寺」というお寺があった。現在は、元の場所から50mほどの所に小さなお堂として残されていて、ここに地蔵菩薩、馬頭観音が祀られているのだが、それらと並んで、簡素で小さな厨子（ずし）がある。この中に、焼けこげてしまった仏像が入っている「らしい」。

「らしい」というのは、地区の方曰く「見てはいけないと言われてきたので、誰も見たことがない」からである。その仏像は、長宗我部の時代に何らかの理由で焼かれてしまったという説と、明治になって吹き荒れた廃仏毀釈（ぶつきしゃく）政策によって焼かれてしまったという説があるのだが、厨子の中にほんとうに有るのか無いのかも含めて、真相は謎である。実に興味深い。

現在、奥呉地には26世帯、57人が暮らしている。

小さなお堂として祀られている宝蔵寺

## 町のうごき

| （5月31日） | 人口 | 前月比 |
|---|---|---|
| 男 | 8,325 | −5 |
| 女 | 9,309 | −3 |
| 計 | 17,634 | −8 |
| 世帯数 | 8,604 | −1 |

| | 出生 | 死亡 | 転入 | 転出 |
|---|---|---|---|---|
| 男 | 6 | 10 | 11 | 12 |
| 女 | 4 | 11 | 14 | 10 |
| 計 | 10 | 21 | 25 | 22 |

（5月中の届出）

窪川地域 12,386人　大正地域 2,516人　十和地域 2,732人

## 四万十川の水質状況

| | 適正値(mg/l) | 6月9日 |
|---|---|---|
| リン酸 | ≦ 1.0 | 0.374 |
| 硝　酸 | ≦ 0.5 | 測定範囲以下 |
| アンモニウム | ≦ 5.0 | 測定範囲以下 |
| アニオン活性剤 | ≦ 1.0 | 0.05 |
| 化学的酸素要求量 | ≦10.0 | 測定範囲以下 |

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信　2017.7月号　Vol.136（毎月10日発行）
●発行／四万十町企画課　●印刷／窪川印刷
〒786-8501　高知県高岡郡四万十町琴平町16-17　☎（0880）22-3124